

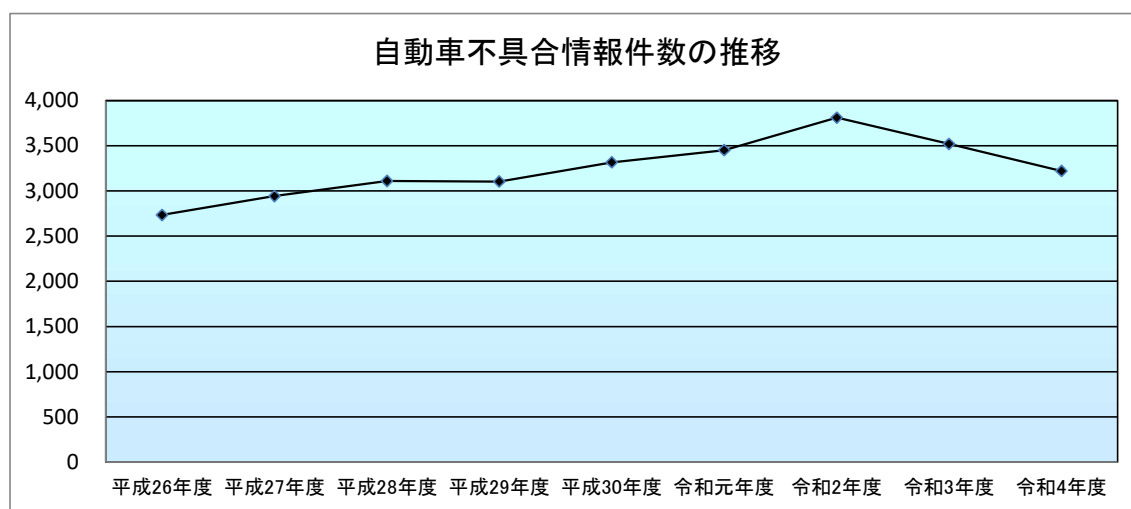
## 令和4年度の自動車不具合情報の統計結果について

国土交通省の自動車不具合情報ホットライン (<https://renrakuda.mlit.go.jp/renrakuda/hotline.html>) に自動車ユーザー等から寄せられた自動車の不具合情報について、令和4年度の統計結果をとりまとめたので公表いたします。

なお、本自動車不具合情報は、設計又は製造に起因するものに限られておらず、整備不良やユーザーの誤使用等に起因する可能性があるものも含まれています。また、本統計はあくまでもユーザーの申告による不具合情報を元にしており、国土交通省として不具合情報の内容について事実関係を保証しているものではありません。

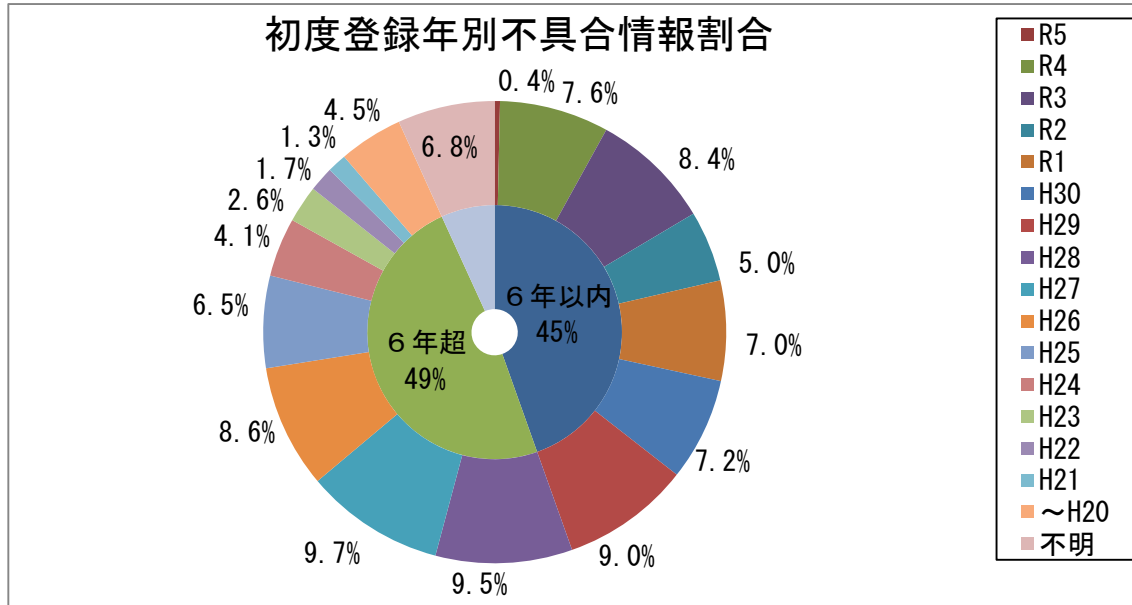
1. 令和4年度に国土交通省の自動車不具合情報ホットラインに寄せられた情報の件数は5,436件であり、そのうち有効な自動車不具合情報件数は3,221件であった。

件数の推移をみると平成26年以降令和2年度までは緩やかな増加傾向であったが、令和3年度以降は減少に転じている。



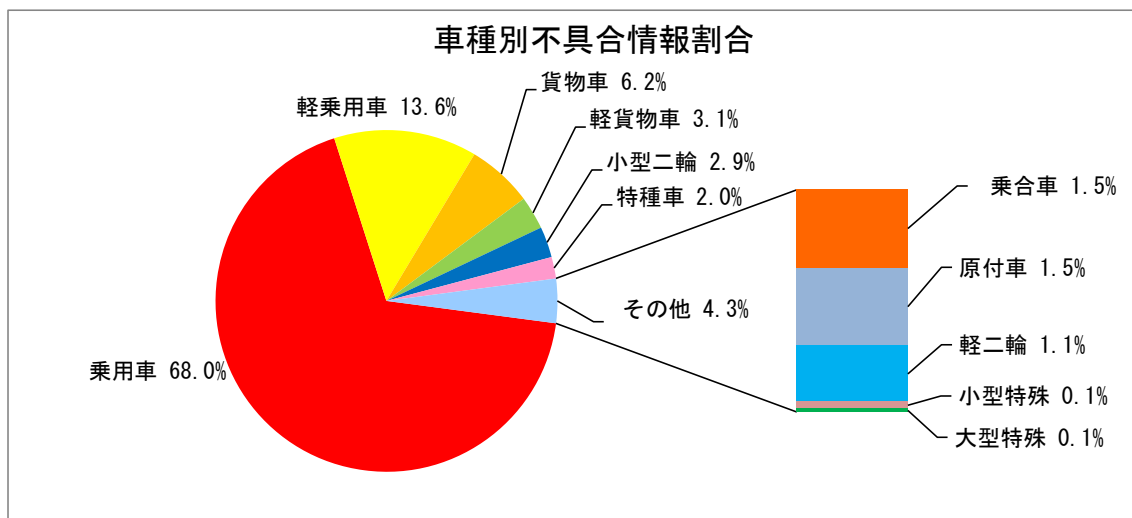
年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
件数	2,733	2,943	3,110	3,105	3,317	3,452	3,811	3,522	3,221

2. 初度登録年別（軽自動車にあっては初度検査年。以下同じ。）の不具合情報件数は、初度登録年が平成27年の自動車が314件(9.7%)と最も多く、次いで平成28年の自動車が307件(9.5%)となっている。初度登録後6年以内の自動車に関わる不具合情報件数と6年超経過した自動車（不明を除く。）に関わる不具合情報件数を比較すると、大きな差はなく、6年超の件数が若干多くなっている。



初度登録年別	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	~H20	不明	合計
件数	12	246	271	160	226	231	290	307	314	278	208	132	84	56	43	144	219	3,221

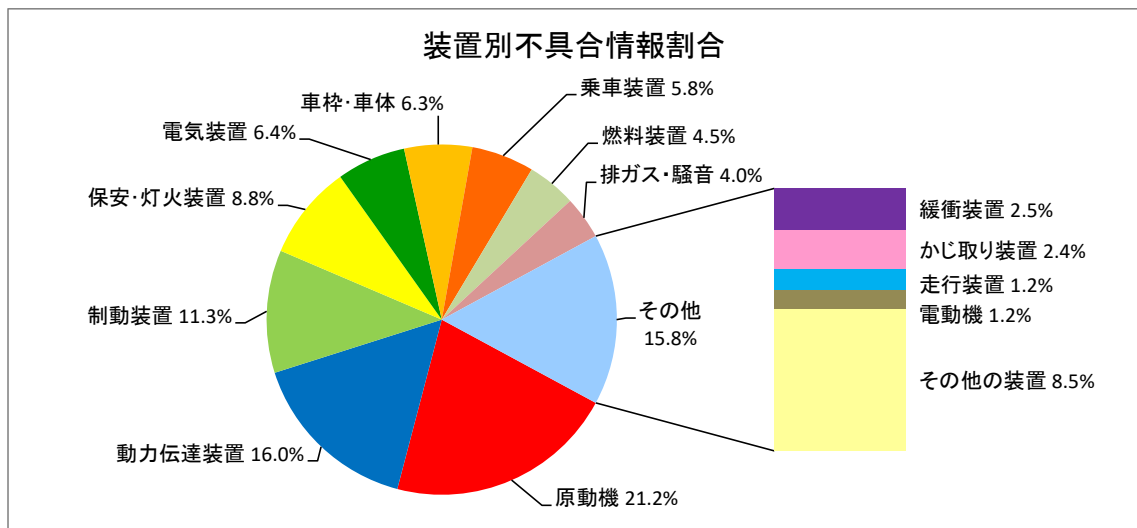
3. 車種（用途）別の不具合情報件数は、「乗用車」が2,189件(68.0%)と最も多く、次いで「軽乗用車」が437件(13.6%)、貨物車が200件(6.2%)の順となっている。



車種別	乗用車	軽乗用車	貨物車	軽貨物車	小型二輪	特種車	乗合車	原付車	軽二輪	小型特殊	大型特殊	合計
件数	2,189	437	200	101	94	66	47	47	34	4	2	3,221

4. 装置別の不具合情報件数は、「原動機」が682件で全体の21.2%と最も多く、次いで「動力伝達装置」が516件(16.0%)、「制動装置」が365件(11.3%)の順となっている。

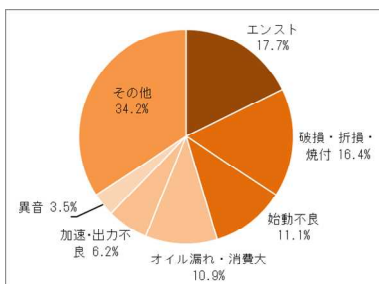
これら不具合情報件数の多い装置分類の上位3種について不具合事象をみると、件数上位に、原動機では「エンスト」「破損・折損・焼付」、動力伝達装置では「異音」「走行不能」、制動装置では「制動力不足」「液・空気漏れ」といった走行安全性に関わる重大な事象が占めており、件数の中位には「オイル消費大」「変速ショック」や「異音・鳴き」といった快適性・商品性に関わる事象が挙げられている傾向がみられる。



装置別	原動機	動力伝達装置	制動装置	保安・灯火装置	電気装置	車枠・車体	乗車装置	燃料装置	排ガス・騒音	緩衝装置	かじ取り装置	走行装置	電動機	その他の装置	合計
件数	682	516	365	282	205	202	186	146	128	81	77	39	38	274	3,221

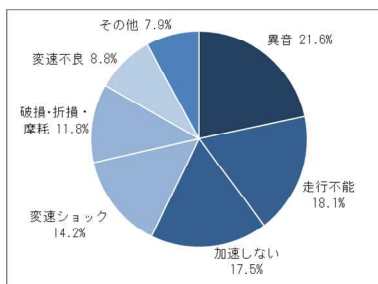
不具合の多い装置分類 上位3種

1. 原動機



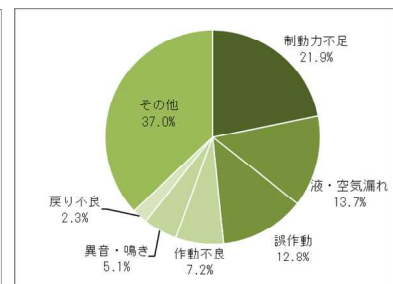
順位	不具合事象	件数
1	エンスト	121
2	破損・折損・焼付	112
3	始動不良	76
4	オイル漏れ・消費大	74
5	加速・出力不良	42
6	異音	24
	その他	233
	合計	682

2. 動力伝達装置



順位	不具合事象	件数
1	異音	79
2	走行不能	66
3	加速しない	64
4	変速ショック	52
5	破損・折損・摩耗	43
6	変速不良	32
	その他	29
	合計	365

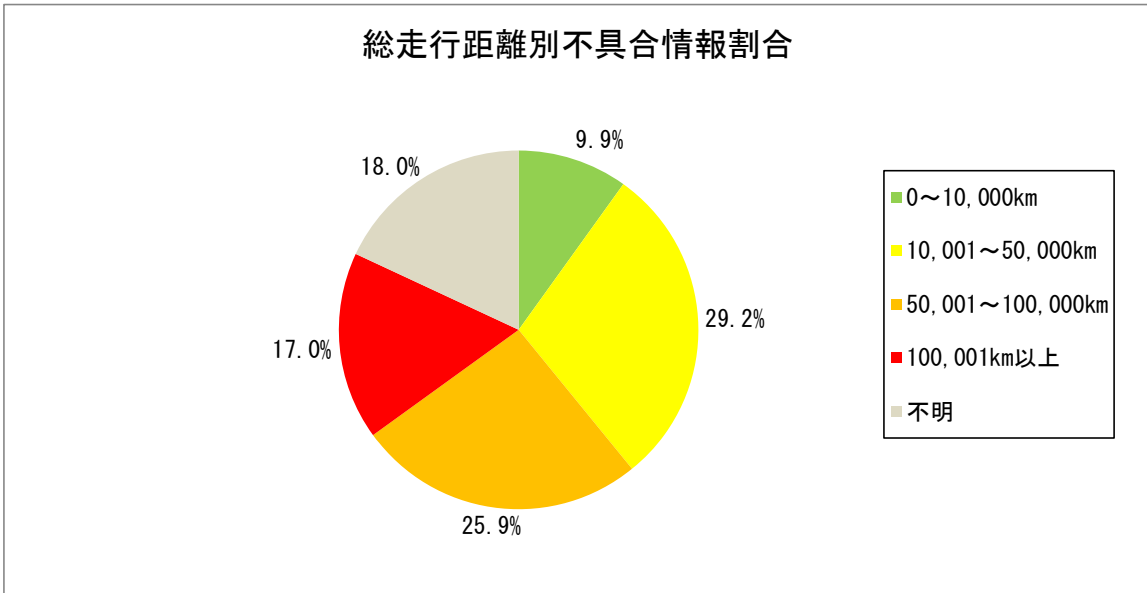
3. 制動装置



順位	不具合事象	件数
1	制動力不足	94
2	液・空気漏れ	59
3	誤作動	55
4	作動不良	31
5	異音・鳴き	22
6	戻り不良	10
	その他	159
	合計	430

5. 総走行距離別の不具合情報件数は、「1万km超5万km以下」が941件(29.2%)と最も多く、次いで「5万km超10万km以下」が834件(25.9%)、「10万km超」が546件(17.0%)、「1万km以下」が319件(9.9%)の順となっている。

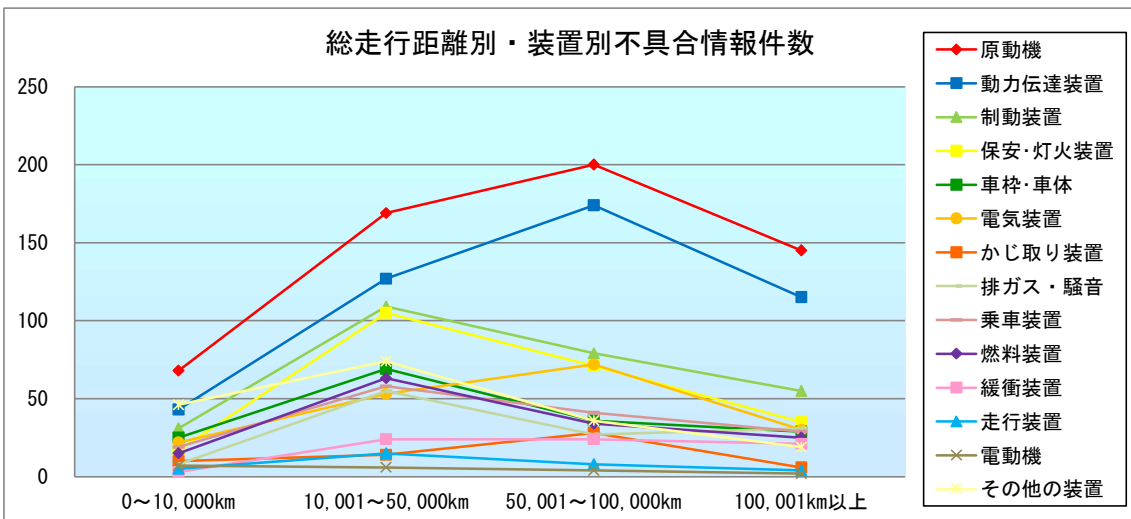
5万km以下と5万km超の不具合情報件数とを比較すると、後者の不具合情報が多く寄せられている。



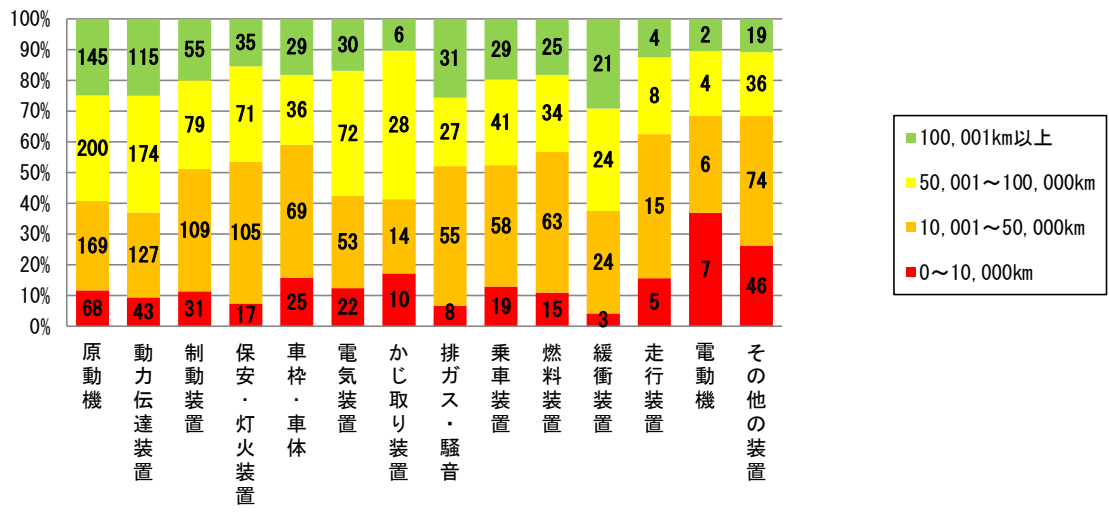
総走行距離別	0~10,000km	10,001~50,000km	50,001~100,000km	100,001km以上	不明	合計
件数	319	941	834	546	581	3,221

6. 総走行距離別・装置別の不具合情報件数をみると、装置別不具合件数上位3種について、「原動機」および「動力伝達装置」は5万km超10万km以下の不具合情報件数が最も多く、「制動装置」は1万km超5万km以下の不具合情報件数が最も多くなっている。

また、不具合情報割合をみると、「電動機」「走行装置」は5万km以下の比較的総走行距離が少ない早期に不具合情報が挙げられる傾向がある。



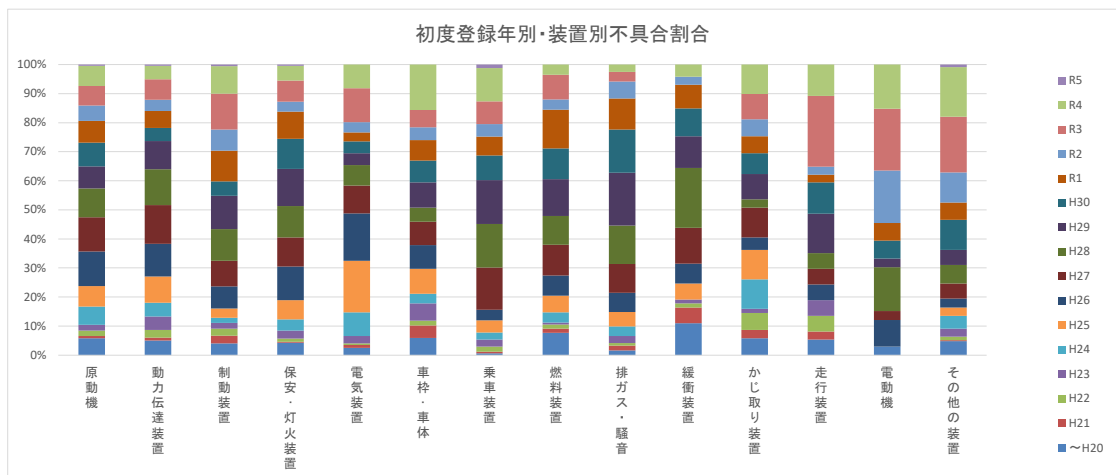
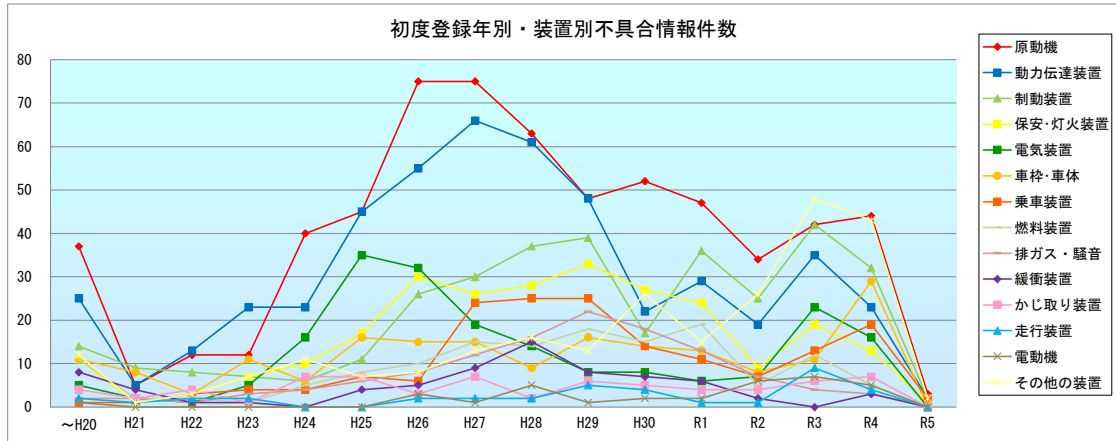
走行距離別・装置別不具合割合



(件)

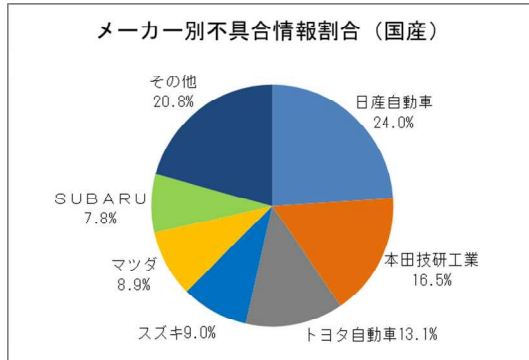
総走行距離別 装置別	0~10,000km	10,001~50,000km	50,001~100,000km	100,001km以上	不明	合計
原動機	68	169	200	145	100	682
動力伝達装置	43	127	174	115	57	516
制動装置	31	109	79	55	91	365
保安・灯火装置	17	105	71	35	54	282
車枠・車体	25	69	36	29	43	202
電気装置	22	53	72	30	28	205
かじ取り装置	10	14	28	6	19	77
排ガス・騒音	8	55	27	31	7	128
乗車装置	19	58	41	29	39	186
燃料装置	15	63	34	25	9	146
緩衝装置	3	24	24	21	9	81
走行装置	5	15	8	4	7	39
電動機	7	6	4	2	19	38
その他の装置	46	74	36	19	99	274
合計	319	941	834	546	581	3,221

7. 初度登録年別・装置別の不具合情報件数をみると、全体として初度登録H27、28、29年の件数が多くなっているが、「電動機」は初度登録R3年にピークがあり、他の装置種別と比べて早期に不具合情報が挙がってくる傾向がみられる。

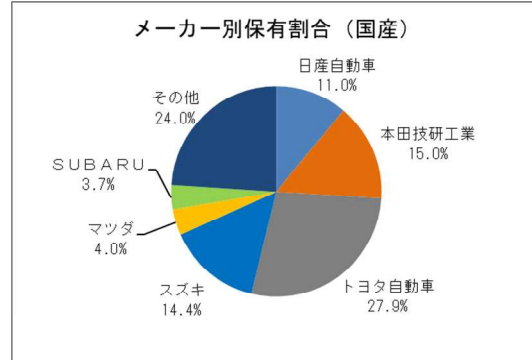


装置別	初度登録年別																	不明	総計
	～H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5			
原動機	37	5	12	12	40	45	75	75	63	48	52	47	34	42	44	3	48	682	
動力伝達装置	25	5	13	23	23	45	55	66	61	48	22	29	19	35	23	2	22	516	
制動装置	14	9	8	7	6	11	26	30	37	39	17	36	25	42	32	2	24	365	
保安・灯火装置	11	1	3	7	10	17	30	26	28	33	27	24	9	19	13	1	23	282	
電気装置	5	2	1	5	16	35	32	19	14	8	8	6	7	23	16	0	8	205	
車枠・車体	11	8	3	11	6	16	15	15	9	16	14	13	8	11	29	0	17	202	
乗車装置	1	1	3	4	4	7	6	24	25	25	14	11	7	13	19	2	20	186	
燃料装置	11	2	2	1	5	8	10	15	14	18	15	19	5	12	5	0	4	146	
排ガス・騒音	2	2	1	3	4	6	8	12	16	22	18	13	7	4	3	0	7	128	
緩衝装置	8	4	1	1	0	4	5	9	15	8	7	6	2	0	3	0	8	81	
かじ取り装置	4	2	4	1	7	7	3	7	2	6	5	4	4	6	7	0	8	77	
走行装置	2	1	2	2	0	0	2	2	2	5	4	1	1	9	4	0	2	39	
電動機	1	0	0	0	0	0	3	1	5	1	2	2	6	7	5	0	5	38	
その他の装置	12	1	3	7	11	7	8	13	16	13	26	15	26	48	43	2	23	274	
合計	144	43	56	84	132	208	278	314	307	290	231	226	160	271	246	12	219	3,221	

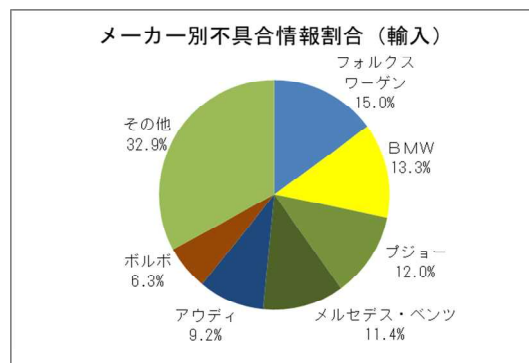
8. メーカー別の不具合情報件数をみると、国産車メーカーでは日産自動車が571件(24.0%)と最も多く、次いで本田技術工業が393件(16.5%)、トヨタ自動車が312件(13.1%)の順となっている。また、輸入車メーカーではフォルクスワーゲンが125件(15.0%)と最も多く、次いでBMWが111件(13.3%)、プジョーが100件(12.0%)の順となっている。



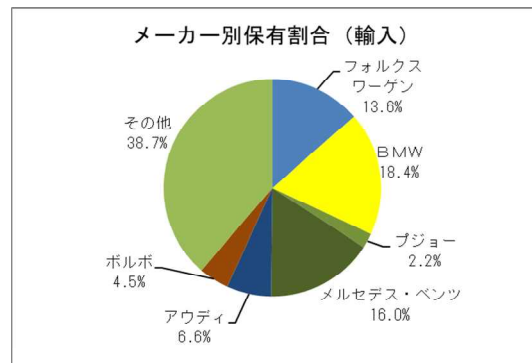
順位	メーカー名	件数
1	日産自動車	571
2	本田技術工業	393
3	トヨタ自動車	312
4	スズキ	214
5	マツダ	212
6	SUBARU	185
	その他	496
	合計	2,383



順位	メーカー名	台数 (千)
4	日産自動車	8,491
2	本田技術工業	11,607
1	トヨタ自動車	21,555
3	スズキ	11,153
5	マツダ	3,130
6	SUBARU	2,875
	その他	18,557
	合計	77,367



順位	メーカー名	件数
1	フォルクスワーゲン	125
2	BMW	111
3	プジョー	100
4	メルセデス・ベンツ	95
5	アウディ	77
6	ボルボ	53
	その他	275
	合計	836



順位	メーカー名	台数 (千)
3	フォルクスワーゲン	652
1	BMW	886
6	プジョー	105
2	メルセデス・ベンツ	770
4	アウディ	319
5	ボルボ	216
	その他	1,860
	合計	4,808

注：メーカー別保有台数は、令和4年3月末現在における(一財)自動車検査登録情報協会及び(一社)全国軽自動車協会連合会の集計数字(小型特殊自動車及び原動機付自転車を除く。)より算出した。

※ メーカー別保有割合の順位は、不具合件数上位6社において順位付けしたもの。全社での保有台数上位6社を示したものではない。

(付録) 令和4年度ユーザー不具合情報における衝突被害軽減ブレーキおよびペダル踏み間違い急発進抑止装置に関する統計結果について

令和4年度にユーザーから国土交通省に寄せられた自動車の不具合情報のうち、衝突被害軽減ブレーキ及びペダル踏み間違い急発進抑止装置に関する不具合情報と思われるものを統計的にとりまとめたので、その結果を報告いたします。

なお、この統計結果はユーザーの申告による不具合情報を元にしており、国土交通省として不具合情報の内容について事実関係を保証しているものではありません。

1. 衝突被害軽減ブレーキ

令和4年度に衝突被害軽減ブレーキに関する不具合情報は73件あった。

(1) 車種別件数

(件)

車種 \ 事象	不作為	不要作動	その他	合計
乗用車	16	39	0	55
軽乗用車	3	14	0	17
貨物車	0	0	0	0
軽貨物車	0	1	0	1
合計	19	54	0	73

(2) 被害別件数

(件)

被害 \ 事象	不作為	不要作動	その他	合計
物損事故	8	0	0	8
人身事故	2	3	0	5
事故なし又は不明	9	51	0	60
合計	19	54	0	73



(3) 物損事故

(件)

車種 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
乗用車	7	0	0	7
軽乗用車	1	0	0	1
貨物車	0	0	0	0
軽貨物車	0	0	0	0
合計	8	0	0	8

(4) 人身事故

(件)

車種 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
乗用車	2	2	0	4
軽乗用車	0	1	0	1
貨物車	0	0	0	0
軽貨物車	0	0	0	0
合計	2	3	0	5

## 2. ペダル踏み間違い急発進抑止装置

令和4年度にペダル踏み間違い急発進抑止装置に関する不具合情報は9件あった。

### (1) 車種別件数

(件)

車種 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
乗用車	6	2	0	8
軽乗用車	1	0	0	1
貨物車	0	0	0	0
軽貨物車	0	0	0	0
合計	7	2	0	9

### (2) 被害別件数

(件)

被害 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
物損事故	3	0	0	3
人身事故	0	0	0	0
事故なし又は不明	4	2	0	6
合計	7	2	0	9

### (3) 物損事故

(件)

車種 \ 事象	不作動	不要作動	その他	合計
乗用車	3	0	0	3
軽乗用車	0	0	0	0
貨物車	0	0	0	0
軽貨物車	0	0	0	0
合計	3	0	0	3

### (4) 人身事故

人身事故に至った不具合情報はなかった。